

令和5年度 研修会・学会等参加実績

1. 兵庫県看護協会主催研修会

研 修 会	開催日	参加者
感染対策エキスパート養成研修 ベーシックコースⅠ (WEB/会場)	6/7・7/13	4
指導者のための看護研究支援のコツ(WEB)	6/21・22	1
重症化・急変予測に必要なスキル ～臨床判断力を磨こう～	6/23	3
高齢者の暮らしを支えるケア～感染管理～ (WEB)	7/7	2
新人看護職員卒後臨床研修事業 実地指導者研修	7/12・8/10 9/12・2/28	1
高齢者の暮らしを支えるケア 検査所見の見方・捉え方 (WEB)	7/31	3
感染対策エキスパート養成研修 ベーシックコースⅡ (WEB/会場)	8/17・24	1
高齢者の暮らしを支えるケア 薬物療法と療養支援 (WEB)	8/31	4
糖尿病とともに生きる ～糖尿病の基礎知識とセルフケア支援～ (WEB)	9/4	3
人生最終段階の意思決定支援 ～患者にとって最善を 考えるためのコミュニケーションスキル～ (WEB)	9/5	2
これだけは知っておきたい感染症の基礎知識と予 防対策 ～標準予防策をマスターしよう～	9/13	3
実習指導者集まれ研修 臨地実習指導の基本を学ぼう(基礎編)	9/14・15	4
3年目看護師集まれ研修 個人とチームの成長を 促す新たなリーダーシップを学ぼう	9/16	4
慢性呼吸器疾患とともに生きる ～呼吸器疾患の理解と看護～	9/19	1
認知症ケアは看護の原点 1)エビデンスに基づいた視点とケア	9/20	2
「食べる」を支える看護の視点 摂食嚥下ケア～その人らしく生きるために～	10/3	3
今日から役立つせん妄ケア (WEB)	10/11	3
4年目看護師集まれ研修 倫理感性を高めよう	10/25	3
5年目看護師集まれ研修 看護現場に求められる ファシリテーションスキルを磨こう!	10/28	1
認知症ケアは看護の原点 2)尊厳を踏まえたコ ミュニケーションと療養環境づくり	10/28	3
退院支援実務者研修	11/15・16・17 R6/2/8	1
高齢者の暮らしを支えるケア ～スキンケアと褥 瘡予防・ポジショニング～ (WEB)	11/21	4
看護研究はじめの一步 (WEB)	12/4	1
心不全とともに生きる 心臓不全患者の理解と看護 (WEB)	12/5	2
高齢者の暮らしを支えるケア ～摂食嚥下ケア～ (WEB)	12/12	3
自施設で災害時に困らないための実践力を高める ～災害支援ナースができること～	12/13	2
病棟ナースが知っておきたい在宅療養の実際 (WEB)	12/11	3
急性期から考える皮膚トラブルスキンケア	1/17	3

研 修 会	開催日	参加者
チームで取り組む倫理的問題への対応	1/18	3
高齢者の暮らしを支えるケア ～認知症ケア～ (WEB)	1/23	3
令和5年度入会会員研修 (WEB)	5/22～5/30	21
看護職認知症対応力向上研修 (認知症加算研修)	6/27・28・29	1
認知症高齢者の看護実践に必要な知識① (DVD研修) 認知症加算研修	7/24・25	2
認知症高齢者の看護実践に必要な知識② (DVD研修) 認知症加算研修	9/28・29	1
認知症高齢者の看護実践に必要な知識③ (DVD研修) 認知症加算研修	11/28・29	1
看護師長のための役割講座 1)師長の役割って何? (WEB)	7/5	1
看護職員のためのメンタルヘルスケア ～働きやすい職場づくりのために～	7/11	3
令和5年度ファーストレベルⅡ期フォローアップ研修	8/10	1
主任のための役割講座 1)主任の役割って何? (WEB)	8/30	3
スタッフが看護を語れる職場をつくるために	9/21	1
看護管理者研修 (WEB)	10/19	1
人材育成のためのクリニカルリーダーの活用方法 ～スタッフのキャリア支援につなげる～ (WEB)	10/26	2
主任のための役割講座 1)スタッフとともに育つための人材育成	11/14	2
ファーストレベル公開講座② (WEB)	12/14	3
ファーストレベル公開講座③ (WEB)	1/30	2

2. 日本看護協会主催研修

研 修 会	開催日	参加者
高齢者の“いつもと違う”を看護に活かす①～夜、眠れ ない高齢者～ (Zoom)	6/27	2
高齢者の“いつもと違う”を看護に活かす②～食事に時 間がかかる高齢者～ (Zoom)	7/25	2
高齢者の“いつもと違う”を看護に活かす③～胸が痛い と訴える高齢者～ (Zoom)	9/12	1
高齢者の“いつもと違う”を看護に活かす④～なんとなく 息が荒い高齢者～ (Zoom)	10/3	1
主任のための組織管理入門～自部署の問題を組織管 理の視点で考える～ (Zoom)	6/14	2
看護師長のレジリエンス強化～環境変化への即応力と 柔軟性～ (Zoom)	9/27	2
研修での学びと実践をつなぐ指導者のための研修 (Zoom)	7/12	2
看護チームにおける業務の在り方: マネジメント (OD)	12/26	1

3. その他研修

研 修 会	開催日	参加者
県立病院看護部師長研修 (2～4年目)	7/1	2
県立病院看護部師長研修 (10年以上)	12/2	2
県立病院看護部部長・次長研修	12/16	4
BLSヘルケアプロバイダーコース	5/9・5/17	2
ACLSヘルケアプロバイダーコース	6/24・25	1
県立病院 医療安全研修会	11/30	3
神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成 プログラム 栄養医療コース (NST合同研修)	12/9・10 R6.5/16・21・28	1
医療安全管理者養成オンラインセミナー	11/27～12/1 12/8	1
がん患者リハビリテーション研修	3/10	1

4. 看護協会等学会

学 会	開催日	参加者
兵庫県看護協会定時総会・職能集会	6/15	2
県立病院学会	9/9	7
日本看護教育学会学会学術集会 (オンデマンド配信)	8/19	1
リハビリテーション・ケア合同研究大会2023 (広島)	10/26・27	2
日本リハビリテーション看護学会 学術大会 (熊本) *オンデマンド配信	11/20～12/20	1

令和6年度看護部新任職員中央オリエンテーション実績

日程	研修テーマ	ねらい	参加人数	評価	講師
4月4日 (木)	リスクマネジメント 救急対応教育	<ul style="list-style-type: none"> 中央病院の救急コードを理解する CPRの基本とAEDの使用方法を理解する 	25	コードQQのかけ方、CPR及びAEDの使用方法を実践した。	救急教育チーム
4月8日 (月)	リスクマネジメント 感染対策 スタンダードプリコーション 手洗い	<ul style="list-style-type: none"> 医療職として必要な感染対策の基本を理解する 	24	手指衛生の方法を講義と実技で学び、自己の手指衛生の手技を振り返ることで改善点に気づき効果的な方法を考えることができた。標準予防策及び個人防護具を実際に着用することで適切な使用への理解が深まった。	ICT
4月9日 (火)	電子カルテ操作練習(OJT)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な電子カルテの操作方法がわかる カルテ記載上の注意点がわかる 	24	電子カルテの基本的な操作説明及び実技練習を行い、勤務場所で安全に電子カルテを使用できるよう学習の場を設けた。講義資料・手技チェックリストを用いて各部署単位で実施した。	師長補佐 各部署
4月10日 (水)	リスクマネジメント 医療安全について	<ul style="list-style-type: none"> 医療の不安定性と不確実性を理解する インシデント・オカレンス報告及び医療事故発生時の対応を理解する 	24	医療安全関連の経緯、インフォームド・コンセントの重要性、インシデント報告の意義と方法、医療者の心得10か条について学んだ。	こどものリハビリテーション・睡眠・発達医療センター長
	日常生活の援助技術 更衣(OJT)	<ul style="list-style-type: none"> 更衣が必要な状態や疾患、障害を理解できる 更衣の介助の実際がわかる 	23	更衣が必要な状態や疾患、障害を理解することができた。リハビリテーション病院における基本的な更衣の介助方法を学んだ。講義資料・手技チェックリストを用いて各部署単位で実施した。	師長補佐 主任
	当院における記録の実際	<ul style="list-style-type: none"> 看護記録について、基本的な知識が理解できる 当院の看護記録についての基本がわかる 	23	看護記録とは、看護実践の方法と記録の書き方、看護記録の構成要素、記録上の注意点について学んだ。	記録委員
	報告って何をどうするの？	<ul style="list-style-type: none"> 報告の基本について理解できる 実践場面での活用方法について理解できる 報告のツール(SBAR)がわかる 	23	報告の基本である「報告・連絡・相談」が理解でき、実践場面で活用できるように、SBARの視点を持って報告することを学んだ。	
4月11日 (木)	日常生活の援助技術 おむつ・尿便器のあて方 浣腸・導尿	<ul style="list-style-type: none"> 排泄の介助が必要な状態や疾患、障害を理解できる・排泄介助について、目的・適応・方法・使用方法がわかる おむつでの排泄体験を通して、今後の看護を考える 浣腸・導尿について模擬体験を通じて、方法や注意事項など基本的な看護技術の習得ができる 安全安楽な排泄ケアの実際がわかる 	23	排泄援助の必要な状態や疾患、障害を理解することができた。おむつでの排泄体験を通じて意見交換し、今後の看護を考えることができた。浣腸・導尿では模擬体験を行い、安全・安楽な援助方法を学び、排泄ケアの実際がわかった。	皮膚・排泄ケア 認定看護師 おむつファイター
	リハビリ看護の専門性を語る① 皮膚・排泄ケア認定看護師	<ul style="list-style-type: none"> 褥瘡予防や排泄ケアの看護について基本的な考え方が理解できる 当院における認定看護師の役割・活動がわかる 	25	認定看護師の役割、排泄における看護、褥瘡リスク、除圧とスキンケア、褥瘡回診等チームアプローチについて事例を交え学んだ。	皮膚・排泄ケア認定看護師

令和6年度看護部新任職員中央オリエンテーション実績

4月11日 (木)	日常生活の援助技術④ 体位変換・移動	<ul style="list-style-type: none"> ・体位変換、移乗移動が必要な状態や疾患、障害を理解できる ・ボディメカニクスの原理原則を理解し、応用することができる ・移乗・移動時の転倒転落防止策がわかる 	23	体位変換・車いす移乗・移動の基本的な介助方法を理解できた。 ボディメカニクスの原理・原則を理解し体位変換や移乗の介助に応用する方法を学んだ。 自部署で講義を視聴後、2グループ制で実施した。	師長補佐 主任
4月12日 (金)	看護技術 酸素吸入 血糖測定(OJT)	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素吸入、血糖測定が必要な状態や疾患、障害を理解できる ・酸素吸入・血糖測定の必要物品と手技の実際がわかる 	23	鼻腔カニューレ・マスクによる酸素吸入の方法及び患者の観察と記録について理解できた。 血糖測定では患者の苦痛を最小限にする必要性を学んだ。 講義資料・手技チェックリストを用いて各部署単位で実施した。	師長補佐 各部署
	日常生活の援助技術 食事と口腔ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションにおける食事の意義及び支援が必要な状態や疾患、障害を理解できる ・口腔ケアの目的・方法・物品、歯科とのケア介入について理解できる 	23	口から食べることの意義、嚥下の実際を体験学習し、口腔ケアの重要性を理解できた。 歯科衛生士によるブラッシング方法やケアの実際を通して、歯科との連携の重要性を学んだ。 2グループ制で実施した。	NSTリンクナース 歯科衛生士
4月16日 (火)	リハビリテーション看護の専門性 ICFの考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ICFの基本的な考え方を理解し、当院でのICFにおける看護師の役割がわかる 	24	健康と障害の見方・考え方、ノーマライゼーション、出来る事をプラスの視点で考えることを学んだ。	脳卒中 リハビリテーション 看護認定看護師 回復期 リハビリテーション 認定看護師
	リハビリテーション看護の専門性 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中リハ看護について基本的な考え方が理解できる ・当院における認定看護師の役割・活動がわかる 	24	リハ看護を実践するスペシャリストとして、脳卒中の病態から、様々な障害に対する看護について講義を受け、リハ看護のやりがいや楽しさを学ぶことができた。	
	看護必要度・日常生活機能評価 FIMについて	<ul style="list-style-type: none"> ・看護必要度について理解する ・看護必要度(日常生活機能評価)の記録方法について理解する ・機能的自立度評価法(FIM)について学ぶ 	24	回復期リハビリテーション病棟の機能や看護必要度の理解を深めた。 日常生活機能評価項目及び評価の仕方を学んだ。 FIMについて他職種と共に評価の一部を実施することができた。	
4月17日 (水)	リハ看護の実際・先輩看護師から	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩看護師の話を聞くことで、看護師として働く自分がイメージできる ・看護師として働くことへの不安を解消できる 	22	経験3年目先輩看護師の体験を聞き、これからの自分をイメージできた。 新人は知識不足から不安が大きいが、責任をもって業務ができるようになり、努力することで成長できたと聞き、頑張ろうという気持ちになったとの意見があった。	中堅看護師 師長補佐
	思いを言葉にのせて ～こんな看護師になりたい！～	<ul style="list-style-type: none"> ・新任職員中央オリエンテーションを通して学んだことを共有する ・これからの自分の看護を考えるきっかけとする 	22	グループワークで「こんな看護師になりたい」を模造紙に書き、決意表明できた。 言語化することで看護師像をイメージでき、お互いの目標を共有することで良い刺激になっていた。	師長補佐
4月18日 (木)	看護技術 吸引	<ul style="list-style-type: none"> ・吸引が必要な状態や疾患、障害を理解できる ・気管内吸引の手技がわかる 	22	気道分泌物や貯留物を除去して、気道の閉塞・呼吸困難を防ぐことを学んだ。 吸引模型を使用して吸引の技術を実践した。 密を避けるため3グループ制で実施した。	師長補佐 主任、主査

看護部部長補佐会
令和5年度新人教育研修会実績

令和5年度は看護部新任職員内訳 新卒新人21名・既卒新人3名であった。

対象者	日時	参加人数	ねらい	講師	研修方法	研修内容	
新人看護職員研修	<診療・治療に係わる技術> 静脈採血	5月12日	20名	真空管ホルダーを使用できる。静脈血採血の手順を理解し安全に採血できる。	木澤 松本 川上	講義 演習	自部署でパワーポイント・動画視聴 演習
	評価	駆血帯の取り扱いをOJTで実施しておく・迷走神経反射の有無の確認をすることでスムーズに進めることができた。穿刺前の清潔な針での針刺し1件、精神的な動揺なく研修を継続した1グループ(10名)1時間30分の2部制で実施。余裕を持って実施できた。少数の方が講師の目は行き届きやすく良い。					
	<診療・治療に関わる技術> 薬の見方	5月18日	21名	安全かつ確実に薬物療法を行うための知識・技術をもって与薬の援助ができる。当院での基本的な内服薬の与薬準備ができる。夜勤に向けた薬の準備方法が分かる。	得平 宮本	講義 演習	講義 演習
	評価	夜勤での与薬準備を想定した講義と演習を行った。与薬準備は指差し呼称で行うことを強調した。実際に病棟で使用している与薬ボックスを1人1ケース使用し研修を行い、模擬の薬(薬をコピーした紙)を処方箋を見ながら準備した。参加者はセットミスにも気づき、リーダーに伝えることも演習で行えていた。受講者からは「セット間違いに気づけ実践で役立つ研修だと感じた。」と意見があった。					
	<安全管理> 夜勤に向けての説明会	5月18日	21名	当院の夜勤体制や前後の流れ、諸注意を知ることによって夜勤のイメージができる。夜勤に向けて、健康・安全・生活に及ぼす影響を知り、自己の健康管理ができる。	得平 宮本	講義	講義
	評価	勤務表の見方はクイズ形式で説明し、理解出来ていた。不安なことに関して意見が出にくかったため、隣同士で話し合い、結果を発表してもらう形式で行った。担当者の経験として2交代・3交代の夜勤前の寝る時間などの過ごし方を話した。夜勤を開始する前のタイミングで研修を行え、受講者からは「長日勤や夜勤の学びとなった」「心配事の解決ができた」と意見があった。					
	<情報管理> 記録・電子カルテについて	5月26日	22名 (欠席1名)	当院での看護記録について理解できる。フォーカスチャータリングの基本を理解し、状況に応じた記録の記載ができる。	東 長畑	講義 GW	講義「フォーカスチャータリングについて」 整形系・内科系に分かれて事例を用いてグループワーク・発表
	評価	グループ分けは内科系・整形外科系と調整した。3新病棟も現在主として関わっている患者層に合わせて調整した。グループワークでは、最初個人で事例を検討し、その後グループワークで意見を持ち寄った。担当者が、各グループの状況を確認し、どの様にまとめようとしているか、悩んでいれば、どの点で悩んでいるかを確認後、ヒントを提示する様にして、各グループでまとめられるように支援した。6グループであったが、それぞれまとめあげることができ、全員発表ができた。また、各グループの発表が伝わりやすいように、フォーカス記録を、スライドに示すなどの工夫を行った。					
	<診療・治療に関わる技術> 点滴静脈注射の管理	6月7日	19名	留置針を留置している患者の点滴静脈注射を看護師が安全に実施できるよう、知識・技術を習得できる。留置針を留置し、点滴注射を受ける患者に安全・安楽な看護の提供ができる。	得平 井上	講義 演習	・講義は事前に各自で視聴 ・2Gに分かれてDVD視聴と演習を実施
	評価	・実際にあったインシデントの説明を取り入れることができた。インシデント説明やデモストに1時間15分は要する。 ・どのグループも積極的に演習に参加できていた。OJTでさらに知識・技術を確認し深めていく。 ・参加者からは、研修時に動画やデモストレーションがあるので分かりやすい、実際に物品に触れたのですぐに活かせるとの意見があった。					
	<診療・治療に関わる技術> 医療機器の取り扱い—モニター—	6月14日	19名	モニターの操作手順を理解できる。モニター操作時の注意点を理解し安全に操作できる。	業者：日本光電2人 (米分)	講義 実技 OJT	・業者からの講義 ・病棟でDVD視聴のあと実技(チェックリストに沿ってモニター操作を行う)
	評価	コロナ対策で1席空けて、座わり受講した。空調が効いてくるまでしばらく時間がかかったので、研修前に空調の準備を行う必要があった。「講義のパワーポイントにアラーム音や心電図の波形の動画があり、講義が分かりやすかった。」「OJTで実施することでイメージがわいた。」「実践に慣れていきたい。」「実際に今後使用していく機器に触れることができてよかった。」と意見があった。					
	<診療・治療に関わる技術> 輸液ポンプ・シリンジポンプ	6月30日	19名	輸液ポンプ、シリンジポンプの操作手順が理解できる。輸液ポンプ、シリンジポンプ操作時の注意点を理解し、安全に操作できる。	業者：テルモ2人 (宮本・信濃)	講義 実技	業者からの講義と実技研修を実施
	評価	4Gに分けて演習を実施した。講義/演習を項目ごとに行った。業者より閉塞・気泡などアラーム対応方法やシリンジポンプのサイフォニング現象について実際を見せてもらい説明があり、分かりやすかったと意見があった。しっかりと機器に触れる時間もあつた。ポンプの便利さもある一方で正しく使用しなければ様々なリスクや患者への影響などもあるため実践では気をつけて取り扱いたいとの意見があり、導入という目的で今回の研修は目標を達成できた。ポンプチェックリストのないようにして確認事項の説明も行った。触れる機会を多くするため、月1回の作動確認などを積極的に行うようにアナウンスした。					
<研修の振り返り・フォローアップ> 3か月の振り返り	7月21日	18名 (欠席3名)	看護師として3ヶ月間を振り返る。仲間との交流を通して、心のリフレッシュができ、エンパワメントする機会とする。	木澤 得平	GW	4月の「こんな看護師になりたい」と同じグループに分かれてグループワーク	
評価	・グループ内で打ち解け合えるよう、アイスブレイクを取り入れた。感染対策のため予定より30分短縮した。 ・久しぶりに同期と病棟でのことを共有出来た、これからも頑張ろうと思えた、この研修のように他の病棟の人と改めて話す機会があるのはとても良いとの意見があった。 ・発表内容は「自立できる技術を増やしたい」「先輩の励ましがうれしかった」「夜勤など責任の重さに不安になることがある」などだった。						
<診療・治療に関わる技術> 薬剤について	7月26日	19名	薬剤参事の講義を通して、薬剤に対する知識を深める。事例を通して、与薬の基本を再確認できる。	米田薬剤部長 (米分)	講義 演習	米田薬剤部長の講義の後、ヒヤリハットが出やすい事例・処方箋を用いたグループワークを実施	

看護部師長補佐会
令和5年度新人教育研修会実績

新人看護職員研修	評価	講義では当院で取り扱っている薬剤の基本的な知識・管理方法について学んだ。「服薬を忘れた場合どう判断するのか等薬剤の知識を新しく知ることが出来た。」「薬の管理方法や与薬時の6Rの確認の徹底が、重要だと感じた。」「薬は処置と同じように、患者さんの命に関わる大切な事なので責任を持って与薬していきたい。」などの意見があった。					
	<日常生活援助に関する技術> 移乗・移動介助技術(公開講座①)	8月2日	21名 (欠席1名)	移乗・移動の介助技術を学ぶ。 移乗・移動の介助技術を日常の看護に活かすことができる。	越智(PT) (紫田)	講義 演習	理学療法士による移乗・移動技術について実技を交えて学ぶ。 普段行っている動作を理論的に学ぶことで、実践に活かすことができる。
	評価	2グループに分けて実施した。講義ではデモンストレーションを入れることで積極的に参加できていた。説明をしながらの演習となり実施出来ない参加者が出たため、方法の再検討が必要である。評価室は冷房が効きにくい構造となっている。扇風機を使用した暑かった。ベッドもあり研修の利用に適しているが環境調整が必要である。評価室の場所が分からず研修に遅れた参加者がいた。各病棟で場所の事前声かけを行う、また新人のオリエンテーションに追加できればよい。次年度は講義時間を短縮し移乗に関する内容はデモンストレーションで行う。マルチシートとスライディングボードをまとめて行う。リフトは安全への配慮も必要のため2台使用して一斉に行えるようにする。(リフト操作から説明が必要のため一人にかかる時間の確保を行う)					
	<日常生活援助に関する技術> 退院支援・退院調整	10月5日	20名	退院支援看護師の役割がわかる。 退院支援・退院調整看護の実際がわかる。	高瀬理恵子 (紫田)	講義	退院支援・調整について理解を深めることで、リハビリテーション病院の看護師として、地域へ戻っていく患者への看護ケアについて何が必要であるか考える機会とする。
	評価	5人1グループとし皆が意見を言えるよう混合編成とした。病棟によっては退院支援をする機会の少ない病棟もあり、良い機会となった。研修を通して、患者を様々な視点で考えるという点についても学べた。午後からの研修では20分程度であれば眠くならず集中して聞くことができる。新任研修の為、答えを出すことを目的とした研修でなく、考えることを目的とした研修が望ましい。					
	<日常生活援助に関する技術> 摂食・嚥下障害看護	10月13日	18名 (欠席3名)	摂食嚥下障害についての知識を深める。 摂食嚥下障害の看護について学び、実践の場で活かすことができる。	東・木原 (NSTリンクナース) (東)	講義 演習	摂食嚥下障害についての講義 ポジショニングの演習
	評価	今後入院担当をすることを見据えて、入院時摂食嚥下評価手順内容を講義に組み込んだ。前年度の課題であった、患者役を具体的に設定することで、看護師役・患者役を意識して取り組むことができた。グループワーク時は、各ベッド1台にNSTリンクナースワーキングメンバーが、ポジショニングの指導に当たり対応した。グループワークの構成が部署ごとに偏っていたため、次回からは、ポジショニング経験が多い部署(5階等)とミックスする方が良いとの意見があった。					
	<日常生活援助に関する技術> 褥瘡予防ケア・フットケア	10月27日	19名	フットケアの必要性を理解し、基本的なアセスメントやケアの方法がわかる。 院内でのフットケアへの取り組みを知ることができる。	フットケアワーキンググループ (長畑)	講義 演習	フットケアの方法、必要性等について講義 爪切り、やすりの演習
	評価	どのように研修するか(企画書作成の前に)事前打ち合わせはグループ担当補佐と行う。ポスター、企画書、会場の予約は補佐会で作成する。持参物品はポスターに記載する。グループ編成・新人のペアリング等については、フットケアグループが担当する。演習開始前に、爪を深く切りすぎない・皮膚をカットしないように注意喚起し、各グループに担当者を配置し指導した。研修受講後、患者の爪を切ることが出来る・爪切りをする時、爪が見やすい看護師の立ち位置を確認できたので、安全に実施できると言う意見が多数あった。					
	<症状・生体機能管理技術> シミュレーション研修	11月9日	17名	患者の訴える症状から必要な観察項目がわかり自分の判断のできる初期対応ができ、先輩看護師にSBARを活用した報告ができる。	長畑 宮本 松尾 村山	シミュレーション 研修	講義 演習 グループワーク
評価	事前課題を提出してもらい、自己学習を促し活発な意見交換ができた。2部制で2時間ずつ実施した。最初は、何を話し合うべきか困っている様子もあったが、ファシリテーターから声掛けをし、バイタルサインの値の意味するものなど深めることが出来ていた。リフレクションからは、知識不足や情報収集の不足、アセスメントが出来ていないと感じたとの意見が多かった。自分だけでなくグループワークの中で新たな視点に気付けた。またSBARでの報告の必要性を実感していた。						
感染対策 -手衛生について-	11月28日	22名	スタンダードプリコーション(標準予防策)を理解する。 手衛生について実技を通して再確認する。	谷川(ICT) (東) (木澤)	講義 演習	講義 10分 演習 15分 感想 5分	
評価	1グループ30分程度で研修終了した。1グループ内でペアをつくり演習を行った。指導者4名で時間に余裕をもって実施することができた。研修参加者の欠席があり、当日にペアの変更を行った。今後、グループ編成も補佐会で事前に提出し、出欠席の有無を確認する。来年度ICTと連携して、既卒者の参加の有無を決定する。						
<診療・治療に関わる技術> 静脈注射(留置針)	12月7日	16名 (欠席4名)	留置針による静脈注射を安全に実施できるように知識・技術を習得できる。 静脈留置針による点滴を受ける患者に、安全・安楽な看護の提供ができる。 安全に静脈留置針注射が実施できる。	東 山本 池田 紫田	講義 実技	当院での静脈注射の講義・DVDでの学習 デモ機による静脈留置針の留置練習 相互での留置針留置の実技体験学習	
評価	今年度は、全人数から午後より2グループに分かれて研修を行った。事前学習として、音声入りパワーポイント視聴、採血動画視聴、看護手順確認、採血静注練習キットに触れて、技術の具体的なイメージを持って参加することができた。オリエンテーション開始時に、針刺しに関する注意喚起を行い、1回の練習時も静脈留置針1本を準備し、不用意に静脈留置針を触ることがないように行った。1グループ1名の担当にして、安全管理上そのグループに集中することが出来、針刺し事故を起こす事なく研修ができた。						
<看護職員として必要な基本姿勢と態度> 看護倫理	12月14日	18名	看護倫理の概念が理解できる。 看護実践の中で倫理問題に気がつくことができる。	成瀬師長 (米分・得平)	講義 GW	講義 グループワーク 4分割表を用いて事例の内容を整理 グループの検討内容の発表、全体での共有	

看護部師長補佐会
令和5年度新人教育研修会実績

評価	研修内容を検討して、グループワークでは当院での倫理カンファレンスに使用している4分割表を使用して考える事が出来るようにグループワーク用の事例を作成した。病棟業務では4分割表を使用することがほとんどない状態での検討であった為、難しかったようであるが、問題点から、どの様に関わったら良いかを考える事が出来ていた。研修での学びをとおして自分ならどう対応するかを書き提出してもらった。「患者の情報をしっかりとる事で全体像を把握して、患者に十分説明を行い、同意が得られるように関わることが大切である。」「自分自身も看護技術の向上に努力し、患者の苦痛を最小限にしたい。」という意見があった。						
<研修の振り返り・フォローアップ> 1年の振り返り	1月18日	14名	自己の看護を振り返り看護観を明確にする。精神的に支え合う仲間づくりを行ない次年度の課題を見出せる。リフレクションを通して自己の成長に気づく。	得平 木澤	GW	「あしあと」を読んだ感想を発表 リフレクションシートを使用してGW発表	
評価	3か月の振り返り研修と同じグループ分けをする予定だったが、退職者2名、欠席者3名だったため、グループを1つ減らした。リフレクションシートに記載して発表することで、看護の振り返りと学習の共有の良い機会となった。アンケートより、「自分の反省点だけでなく、良かった事や嬉しかった事も思い出せて、来年度も頑張ろうと思った」「同期も同じような考えがあり、共有する機会になった」「1日目をグループで共有することで、ひとりじゃないと改めて感じた」という意見があった。						
実地指導者研修	<研修の振り返り・フォローアップ> 令和5年度 プリセプターフォローアップ研修	8月18日	15名	実地指導者としての指導を振り返る。新任職員指導における課題の共有と解決策の検討ができる。	井村早和 (松本)	講義 GW	講義 GW①5か月間の指導を振り返りグループ内で発表する。 ②上手いこと、困っていることを話し合い対処法をグループで考える。
	評価	リフレクションから、短い時間ではあったが、他のプリセプターと情報共有、共感できる機会があったのはよかった。思いを共有することができ、振り返りの良い機会となった、同期の学びが参考になった、今日学んだ事をこれからの実践に活かしていきたい等の意見があった。					
	<研修の振り返り・フォローアップ> 令和5年度 プリセプター研修 振り返り 評価	2月9日	9名	実施指導者としての指導を振り返る。新任看護職員指導における課題の共有と解決策の検討ができる。	井村早和 (前田和利) (松本)	講義 GW	講義 GW①なりたいたいプリセプターになれたか ②年間を通した指導の振り返り・今後の課題
	評価	グループワークでは積極的に意見交換出来ていた。病棟全体で関わることの難しさを感じている参加者が複数おり、補佐会でも情報共有を図った。自己の関わりの振り返りの機会がなかった・他のプリセプターの関わりを知り、今後の課題を見つける機会となったとの意見が出た。また、できなかったことについては考えることができていたが、研修を通してよかったことに気づくことができた、プリセプターと共に成長できた、前向きな意見で研修を終わることができた。					
	<実地指導者の育成・支援> 令和6年度 プリセプター研修 育成・支援	3月8日	18名	当院の教育体制を理解する。実地指導者の概念を理解する。新人看護師の特性を理解する。それぞれの立場における新人教育の役割を理解し、チームの一員として行動できる。新人看護師の支援において必要な知識の習得ができる。	前田和利 (井村 早和) (繁田)	講義 GW	講義と「プリセプターにしてもらって嬉しかった事、もっとしてもらいたかった事、つらかった事」「こんなプリセプターになります」をテーマとしたグループワーク
	評価	事前課題をしておいた参加であった為、グループワークは活発な意見交換ができていた。一緒に成長していけるプリセプター、心理的安全性を図れる環境作りをし、精神的サポートをしていきたいというプリセプターとしての決意表明をした。当院の教育体制を理解し、4月から始まるプリセプターとしての準備が図れたと考える。					